

学校法人 滋慶学園 札幌ベルエポック製菓調理専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果及び改善方策

2025年度自己点検自己評価(2025年4月1日～2026年3月31日)による

委員会開催2026年6月23日(火)

大項目	点検・評価項目	自己評価 優れている…3 適切…2 改善が必要…1	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(課題・特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価 優れている…3 適切…2 改善が必要…1
1 教育理念・目的・育成人材像	1－1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	☐ 学園の理念に沿った目標を掲げ取り組めている ☐ 理念等は文書し明確に定めている。 ☐ 食文化分野の養成校として特性が表れている。 ☐ 実学と人間教育、国際性を身につける教育体系が組んでいる。 ☐ 養成目的、教育目標、シラバスが計画に基づいて実施されている。 ☐ 学生・保護者への浸透はある程度はかれている。関連業界等についてはバラつきがみられる。 ☐ 浸透度の確認については明確な方法を用いていない。 ☐ 環境の変化に則り、毎年の見直しをおこなっている。	☐ 全体会、OJTの中で折に触れ確認し、理解を促す。	3.0
	1－2 育成人材像は、業界などの人材ニーズに適合しているか	3	☐ 関連業界等との共同プロジェクトを通して毎年の修正と明示を行っている。 ☐ 教育課程・授業計画(シラバス)等の策定に関連業界から情報収集している。 ☐ 実習の前後教育を含め、業界からの協力を得て実施している。 ☐ 業界や専門職講師からのアドバイスを開講準備会議等で集約している。	☐ 常に業界とのつながりを持ち、情報をアップデートしていく。	2.9
	1－3 特色ある教育活動に取組んでいるか	3	☐ 問題解決技法をもとに学内店舗実習(ベルズキッチン)を開始。 ☐ 企業課題にも積極的に取り組んでいる。		3.0
	1－4 学校の将来構想を抱いているか	3	☐ 中期的(3～5年程度)な視点として事業計画勉強会を開催している。 ☐ 学校・学科レベルにおいても事業計画を策定し組織内での周知がなされている。 ☐ 将来構想を学生・保護者・関連業界が知る機会が少ない。	☐ 運営会議、全体会で常に意識する。	2.9
2 学校運営	2－1 理念に沿った運営方針を定めているか	3	☐ 事業計画に基づき、運営方針を文書化し「理念」「目標」「計画」について明確に文書化し、周知、浸透の機会を常に設けている。 ・文書としての配布 ・勉強会の実施 ・全体研修での周知と理解度確認を実施。	☐ 個人⇒学科⇒学校というコア組織の事業計画においても、個々の教職員が共有できるような組織文化の構築をはかる。	3.0
	3－1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3	☐ 5ヶ年を定め周知のための勉強会も設定している。 ☐ 中期計画からブレイクダウンした単年度計画も明確に定められている。 ☐ 事業計画に予算、事業目標等を数値で明示。 ☐ 事業計画の執行体制においては、「組織役割表」設定し明確化している。 ☐ 執行・進捗管理状況は予算においては「毎月」、事業計画においては「半年」を目安に見直しの機会を設けている。		3.0
	4－1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	3	☐ 理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催している。 ☐ 理事会、評議員会共に必要な審議と議事録の作成がなされている。 ☐ 寄附行為は、必要に応じて改定の機会が設けられている。		3.0
	4－2 学校運営のための組織を整備しているか	3	☐ 学校運営に必要な組織体系を整備し、役割を明確化している。 ☐ 毎年の事業計画に基づいた新年度組織図が作成され、教職員に開示されている。 ☐ 各部署の組織役割表をもとに明確化されている。 ☐ 会議、委員会等の職務分掌を規定し、意思決定のプロセスを明確化している。 ☐ 会議、委員会等の議事録(記録)は、必要に応じて作成・保存している。 ☐ 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正されている。 ☐ 定期的な部署会議、運営会議、全体会を実施している。		3.0
	5－1 人事・給与に関する制度は整備されているか	3	☐ 採用基準・採用手続きいずれも明確に規定されている。 ☐ 常に能力ある人材の確保については継続しているが、理想に合致した採用計画の遂行と維持には困難を感じる。 ☐ 給与支給等に関する基準・規程を整備し、労働条件通知書をもって明確化している。 ☐ 昇任・昇給の基準を規程等で明確化している。 ☐ 評価システムを規定し、数値目標での評価と情意効果の両面で評価している。	☐ 目標設定においては、各チームの優先課題を見据えた目標の優先順位をつけていく。	2.9
	6－1 意思決定システムは確立されているか	3	☐ 教務においては学校長が主催する進級・卒業判定会議にて意思決定する。 ☐ 財務等の事務処理においては事務局長の決済のもと意思決定がなされている。 ☐ 組織図と職務分掌において規定されている		3.0
	7－1 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	☐ 学園のDX推進方針に呼应し、学内でもDX推進委員を任命し、DX化にとりくんでいる。 ☐ iPadによる出席管理システムを導入している。 ☐ マイクロソフトteamsやSharePointを導入し効率化を推進している。 ☐ サイボーズガルーン、BOXの活用を始めた。	☐ 今後はAIの活用も見据え、全教職員に対して研修を実施する。	3.0

3 教育活動	8－1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	□教育指導要領での文書化 □CPI教育システム・MMPプログラムの教育プログラムの実践		3.0
	9－1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	□教育課程編成する際に学科長がカリキュラムプレゼンを学校責任者に実施している。 □カリキュラムプレゼン議事録に明記している。 □カリキュラムフォームに沿って配分している □法定科目・一般科目・選択科目を規定の時間数の中で配分している □カリキュラムにて明記している □目標に沿ってシラバス・コマシラバスを作成し授業を運営している □コンプライアンスの範囲内で適切に選択している □授業内容に適切にグルーピングなどを取り入れて指導方法に変化を持たせている □MMPプログラムの実践とキャリア教育の視点で科目ごとに配分している □ポートフォリオを活用し職業実践教育を実施している □シラバス・コマシラバスともに作成している 年度更新ごとに見直し改定を行っている	□それぞれの成長段階、履修段階を踏まえた指導と支援、コーチングとティーチングの使い分けができるよう、教務研修を充実させる。 □教育のICT化を推進し、遠隔授業を含めた、教育手法とアクティブラーニングの推進を図る。 □教職員の意識改革のための会議、研修の実施。 □シラバス・コマシラバス・ポートフォリオのWEB化などIT技術を駆使した取り組みが今後の課題	3.0
	9－2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	3	□カリキュラム作成段階において、業界・在校生・卒業生・競合校の変化をキャッチしカリキュラムの改定に反映している。 □離職状況のリサーチを通して離職の理由からブラッシュアップのポイントを評価している □教育成果の見えるコンテストなどに審査員を外部から招聘し、評価を受けている。	□卒業生講師の招聘を促進しマネージャーがその都度に意見交換がし次年度カリキュラムに反映していく	3.0
	9－3 キャリア教育を実施しているか	3	□学園独自のテキストに基づき、必要な能力を明確化しその定義に沿って教育プログラムを実践している □ポートフォリオの活用計画を作成し段階を追って活用している□特別授業や教育課程編成委員会を通して欲しい人材に照らし合わせて意見を頂いている		3.0
	9－4 授業評価を実施しているか	3	□授業アンケートを年間2回実施し、その都度フィードバックを実施している。 □授業の集大成である卒業制作発表会にて業界より評価を頂き課題を頂戴している。	□講師に課題を明示して、改善してもらうことにより満足度を向上させる	3.0
	10－1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用している	3	□学則及び学則施行細則にて明記し全学生に配布している □試験規定を作成しその基準に準拠し公正公平に評価しているまた、進級や卒業については判定会議を実施している □学則に単位読み替えについて明文化している	□学期の初めから一貫して定期試験を意識させるとともに授業内で試験科目のスキルを継続的に習得できるシラバスを構築して再試験者の減少を図る	3.0
	10－2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3	□学校が指導・支援しコンテストに参加し結果はHP内やSNSにその都度掲載している	□入学前からの動機付けの強化を通して改善を図る	2.9
	11－1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	□入学前より動機付けを行い入学後も継続し明確にしている。 □カリキュラムに対策講座を明記し補修についてもシステム化が出来ている		3.0
	11－2 資格・免許取得の指導体制はあるか	3	□業務役割分担表に担当スタッフを選任し複数の担当教員と連携し受験指導をマネジメントしている。 □希望者に受講スケジュールを案内している	□講師会議等の場において、国家試験担当及び講師、担任のミーティングを実施している。	3.0
	12－1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	□法定科目はコンプライアンスに沿って、一般科目は経験で選任している。 □履歴書・資格書の提出を持って確認している □業界での経験を重視し適合しているかを確認している □業界講師や業界に人材の紹介を依頼している □例年後期より次年度に向けての計画を行っている □学校基本調査等において明示している。 □法定基準に基づく教員を採用し手続きも本部と連携に適切に行なわれている。 □業務役割分担と講師時間割にて把握している	□定期的な研修やOJTの実施。 □業界で活躍している講師や卒業生、学生の内定先などの人脈をたどり新規の講師を発掘していく。	3.0
	12－2 教員の資質向上への取組みを行っているか	3	□授業アンケートを通して把握・評価している □教員向けの研修を施している □外部講師による研修と教育提携校の研修を受講している	□講師へのフィードバックと改善に向けた面談と課題克服への方策の検討。	2.8
	12－3 教員の組織体制を整備しているか	3	□分野毎の教員はコンプライアンスに沿って整備し、組織役割表と業務役割分担表において分担と責任は明記している。 □科目連絡会やTBMにて連携・協力体制をとっている。 □授業アンケート・オープン授業を通して改善を図っている		3.0
4 教育成果	13－1 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	□就職目標を設定している □就職活動状況表にてリアルタイムに把握している □第一専門職の業界とは常に情報共有し就職状況を把握している □業界団体のセミナーや本校主催のセミナーなどを実施している □月に1回数値データとして管理している		2.9
	14－1 資格取得率の向上が図られているか	3	□資格所得目標を設定している □必修資格はカリキュラムに対策講座を組み込み、選択資格は放課後に対策授業を実施している □比較を行っており国家試験は全国でも高い合格率である □国家試験対策会議を定例で実施し改善を図りながら指導している	□国家試験対策授業を見直し、学内担当の授業から科目担当講師の授業により、復習と模試を実施し、苦手科目や低学力者対策を早期に実施する。	3.0
	15－1 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	□業界からの訪問と卒業生からの情報で卒業後の離職状況把握に努めている。 □コンテストでの受賞状況の把握に努めている。	□業界講師の授業や学内外の企業説明会に多く参加する機会を設け多角的に業界を理解することが課題。	2.9

5	学 生 支 援	16－1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3	☐ 学生支援センターと教務部が連携し一人一人の学生指導・支援体制を整えている。 ☐ 卒業年次生の担任とキャリアセンターで随時連携体制を構築している ☐ 共通のファイルで常に関覧可能な状態である ☐ 就職セミナー・就職説明会を開催している ☐ 履歴書指導・面接指導は就職講座と個別指導で実践している ☐ 就職支援システムにより、スマートフォンからも求人情報が閲覧できる。		3.0
		17－1 退学率の低減が図られているか	3	☐ 中途退学者の傾向・分析を毎年教務部長中心に総括している ☐ 学生指導の履歴を状況表に記入し保存している ☐ SSCと連携し学生支援体制を構築している ☐ グループ校合同で学習支援センターを設置している	教務会議、担任研修などを通じ、年々変化、多様化している学生サポートについて勉強する機会を設ける。	2.6
		18－1 学生相談に関する体制を整備しているか	3	☐ SSCを含むトータルサポートセンターにおいて支援体制を構築している ☐ 担任授業内やポスター・カードにより学生への案内している ☐ 相談記録は閲覧を制限する形で保存している ☐ カウンセラーの見立てによって適宜促しをしている ☐ 卒業生には必要に応じて対応している	☐ 多様化する学生に対して、専任カウンセラーを2名に増やす。 ☐ 進路アドバイザーとの面談 ☐ SSCの土曜日開設	3.0
		18－2 留学生に対する相談体制を整備しているか	3	☐ 担任と事務局で連携し担当している ☐ 留学生の法規に基づき指導を行っている ☐ 留学生の希望をかなえられるように法規範疇で支援している ☐ 面談記録を残している	☐ 留学生の管理を一元化しビザの更新や出席率のチェックなどを定期的に実施していく。	2.9
		19－1 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3	☐ 必要に応じて滋慶特別奨学金の活用を行っている。また大規模災害時や家計急変時には適宜支援している ☐ 募集要項に減免制度を明記し運用している ☐ 公的支援制度を適切に活用し適切に利用するように学生指導している ☐ 学生・保護者に適宜文書と口頭で情報提供している ☐ 経済支援制度の利用一覧を作成し実績をリアルタイムで把握している		2.9
		19－2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3	☐ 学園内の医療機関を中心に健康診断を計画的に実施し、有所見者の再健診を徹底している ☐ 学校医を選任している。 ☐ 学内に専門職員は配置していないが近隣に提携医療機関を配置。 ☐ 定期検診・再検診について適切に対応している ☐ 健康管理は就職活動に関連付けて啓発しており、心身の健康相談についてはSSCが兼ねている	☐ キャリア教育の一環として自己管理の大切さを啓蒙していく	2.9
		19－3 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3	☐ 学生寮を整備している ☐ 寮長とは連携をとっており必要事項の共有を行っている ☐ 寮提出の資料により明確になっている		2.9
		19－4 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	☐ クラブ活動はないが、放課後練習の課外活動を支援している。 ☐ 接客スキルとサービスマインドを体験を通して学ぶ「学生press」活動を組織し運営している。		2.9
		20－1 保護者と適切に連携しているか	3	☐ 計画的に保護者便りを送付している。また行事への参加を積極的に働きかけている ☐ 保護者に向けた公開授業並びに保護者会を開催している。 ☐ 必要に応じて保護者に連絡し面談の内容の記録は保存している ☐ 緊急連絡先をファイルしている	☐ 問題が深刻化する前に、問題学生の保護者を早期の強力な信頼関係を構築する。	3.0
6	教 育 環 境	21－1 卒業生への支援体制はあるか	3	☐ 同窓会を組織し、活動状況の履歴を残している ☐ 卒業生への就職相談に常に対応している ☐ 同窓会と技術講座を開講している ☐ 開業・コンテスト対策などの支援を行っている	☐ 就職意識や社会人スキルの向上の為、学園の卒業教育機関であるJキャリアスクールの講座を案内している。	2.8
		21－2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3	☐ ヴァローナ社の講習を実施。 ☐ 司厨師協会や北海道全調理師会と連携しプロ向け大会の学生の手伝いの参加 ☐ SCAJと連携し、プロ向けの大会会場校とし、学生の見学も行っている。		3.0
		22－1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	☐ 施設設備は毎年整備し且つ法令も遵守している ☐ 図書や実習機材器具についても整備している ☐ 専門図書を増書している ☐ 休憩のクリエイティブラウンジを整備しまた、昼食の教室を時間割に明記している ☐ バリアフリー構造にしている ☐ 手洗いは常に行い食中毒などの感染症の予防に努めている ☐ 卒業生にも希望に応じて施設を貸し出している ☐ 施設設備の点検は専門の業者に委託し不具合箇所は都度対応している ☐ 年度毎に不具合箇所を洗い出し改築・改修を行っている	☐ 施設・設備のメンテナンスは専門のグループ企業が担当している。施設管理専門スタッフが常駐し、日々校舎のメンテナンスを行う体制となっており、学生の教育環境の維持に努力している。	3.0
		23－1 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	☐ 教育、就職スケジュールの中で重要性や意義、目的を明確にしている ☐ 企画書、実習ノートを整備し適切に運用している ☐ 企業に受入れていただき研修を実施している ☐ 現場力育成の定義に則り5段階で評価していただき、規定日数の実習実施と報告書の提出を持って評価している ☐ 各実習先に担当の教職員が実習期間中に訪問する ☐ 評価表と実習日誌の表記内容を確認し、教育効果を確認している ☐ 学生が自ら考える機会を考慮し、行事に参画させている ☐ 目的に沿って対象を吟味し案内している	☐ 電話やメールにて、実習中の学生状況は概ね把握できている。	2.9
		24－1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	☐ 防災マニュアルから危機管理マニュアルに改定した。 ☐ 耐震構造の建物である。 ☐ 定期的に点検改善を行っている ☐ 避難訓練とAED研修を年1回消防の立会いのもと実施している ☐ 学生教員に危害が及ぶ可能性が有るものについては安全管理対策をしている ☐ 学生・教職員にAED講習、避難訓練を通して防災教育を実施している	☐ 危機管理マニュアルを改定し、職員への周知を実施する。 ☐ 学生について、AED講習会を姉妹校の救急救命士学科と連携してカリキュラムへ組み込み実施している。	2.7
		24－2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	☐ 学校の安全計画と救急時連絡体制及び対応方法を確立し整備している ☐ 非日常報告を徹底している。また事故時にはどのような対応をするかもマニュアル化している ☐ KY活動(危険予知活動)を実施し、注意喚起を強化している。 ☐ 薬品は無いが、火気を扱う為常に火元の点検を教室ごとに防火管理者を選任し担当で分担している ☐ 担当を必ず置き引率体制を引いている	☐ 入学前から在学中・卒業時まで学生への注意喚起と意識付けを、絶えず行なう。	2.9

7	学 生 の 募 集 と 受 け 入 れ	25－1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	☐ 学外で行なわれる進学相談会に適宜参加している。 ☐ 特別に教職員対象では行っていないが要望があれば対応する ☐ 教員や保護者を対象とした学校案内を作成している。	☐ 北海道進路センターが主幹となり高校訪問、地方への出張オープンキャンパス、ガイダンスを実施している。	3.0
		25－2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	3	☐ 適切な募集活動を行なっている。 ☐ オープンキャンパスを開催し、常に来校して相談できる環境を整えている。全教職員に対して広報に関する勉強会を実施し、誰でも対応できる体制にしている。 ☐ 学校案内等において具体的な就職データ、資格取得データを明記し、正確に情報を伝えている。 ☐ 校内に個人情報保護委員会を設置し、管理と研修の徹底を図っており、日本プライバシー認証機構の個人情報管理者研修プログラムのライセンスを取得している。 ☐ オープンキャンパスや学校見学会、個別相談会を実施し多くの参加機会を提供している。 ☐ 選考方法は、高校生・社会人を対象としたAO入試や、留学生を対象とした留学生入試など多様な入試制度を導入している。		3.0
		26－1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3	☐ 入学選考基準・方法は学則及び募集要項に明記している。 ☐ 入学試験後に全学科長及び学校責任者、広報責任者により構成される、「選考会議」で基準に基づいて公平に可否を確定している。		2.9
		26－2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	☐ 現状データに関しては、開校以来のデータを学内の共有サーバーに集約・保管している。（サーバーは定期的にバックアップを取っている） ☐ 当該年度の予測数値に関しては、過去のオープンキャンパス参加者等の実績データから、早期に的確に予測できるノウハウがある。また、入学者数の予測数値に関しては5年先までの計画を立てている。 ☐ 財務に関しても5年先まで計画を作成しており、その進捗度合いを毎年チェックしている。また入学者数の予測と収入予測の整合性も取れている。	☐ 若年層にも広報領域を拡大してナーチャリングに力を入れていく。	3.0
		27－1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	☐ 学納金や預かり金、教材及び講師の見直しを、毎年全学科長及び学校責任者と各部署マネージャーで会議の上決定している。 ☐ 同分野の他校の学納金も調査した上で、適正な学納金を定めている。 ☐ 徴収する金額は募集要項上にすべて記載している。		2.9
		27－2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	3	☐ 募集要項に明記しており、入学辞退の申し出があった場合には適切に対応している。		2.9
8	財 務	28－1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	☐ 毎年事業計画書を作成し、5か年の収支予算を立てている。 ☐ その中で入学者数、在校生数、退学者等を勘案して学費明細を作成し、収入予算の推移を把握している。 ☐ また新学科構想、設備について計画し、支出予算を作成している。 ☐ 借入金等長期資金の計画については、都道府県の基準の範囲内で計画・実行している。 ☐ これらは理事会・評議員会にて承認、報告がなされている。	☐ 学園の財務部門と連携している。	3.0
		28－2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	3	☐ キャッシュフローに基づいた学校運営を重視しており、経費予算のみでなく施設設備支出、借入金返済等を考慮した資金収支の予算も作成している。 ☐ 当該年度の収支に関しては、数値を一ヶ月ごとに算定し、学園本部によるチェックがあり適正な予算管理がされている。 ☐ 5ヶ年計画を策定し、各年度の実績と対比し、課題発見、改善計画に繋げられるよう、学園本部と連携を図っている。		3.0
		29－1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	☐ 5か年の収支予算を作成し、毎年更新される。将来の学生数予測に基づき、収入予算が作成される。また、新学科構想、設備支出等を勘案し支出予算となる。	☐ 学園の財務部門と連携している。	3.0
		29－2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	3	☐ 収支予算については学校現場のみならず学園本部も協議しながら作成し、見直しする。そのため予算の本部と現場との認識のずれはない。 ☐ 作成された予算は、理事会・評議員会で承認を受ける。 ☐ 必要に応じ、年次途中で修正予算を組む。	☐ 特に当該年度、次年度の予算については綿密に立て、実現可能な予算になるようにする。	3.0
		30－1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	☐ 体制を整えるべく、学校法人滋慶学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。		3.0
		31－1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	☐ 私立学校法に基づく財務情報公開体制が整備されている。 ☐ 財務情報公開規程及び情報公開マニュアルを作成し、財務情報公開体制を整備した。 ☐ 財務情報はHPで公開している。	☐ 学内では学生支援センターがコンプライアンスを担う部署として学園総務部門と連携を密にしている。	3.0

9 法令等の遵守	32－1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	☐法人において、法令や設置基準の遵守に対する方針を「コンプライアンス推進規程」として整備し、届出等を適切に実施している。 ☐ハラスメント防止に関する規定を就業規則に明記している。 ☐学生においては特に実習前などに法令遵守についての講習を行なっている。職員に対しても研修を行なっている	☐研修会を開催するなど、届出書類に関しての勉強会を実施して行く。 ☐グループ共通で学生・職員向けにITリテラシー用のテキストを作成。研修を実施。	3.0
	33－1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	☐個人情報、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、研修の徹底を図っている。 ☐個人データを蓄積した記録の取り扱いに関しては、適切に行っている、あの運用にあたっては、TRUSTeプライバシー・プログラムのライセンスを取得し、適正に行なわれている。 ☐教職員に対しては、就業規則等にも個人情報保護を明記すると共に、定期的な教育・研修を実施している	☐グループ共通で学生・職員向けにITリテラシー用のテキストを作成。研修を実施。	3.0
	34－1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	☐実施に関し、評価規定の整備を行なった。 ☐自己評価実施に向けて、組織体制を毎年整備している。 ☐評価結果からあがった改善に対してすぐに関し、カリキュラム変更を行ない対応した。		3.0
	34－2 自己評価結果を公表しているか	3	☐評価の結果をまとめ、HPにも公表している。	☐情報公開アドレス(本校HP) http://www.foods.belle.ac.jp/about/jyouhou	3.0
	34－3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3	☐実施に関し、学校評価規定を整備している。 ☐実施に向けて組織体制を再度整備している。		3.0
	34－4 学校関係者評価結果を公表しているか	3	☐評価結果を報告書にまとめ、HPに公開した。	☐今後も自己点検評価と学校関係者評価委員会の公開を積極的に行う。	3.0
	35－1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	☐情報公開に関しては、本校ホームページや学校案内にて行なっている。特に日々の教育内容に関してはSNSを活用し日々発信している。 ☐学校案内で教育内容を見ることができるのは資料請求者に限られるが、SNSやホームページにも同様の内容を公表しているので広く社会に公開されている。		3.0
10 社会貢献	36－1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	☐学園のミッションに「業界の信頼」「地域の信頼」「業界の信頼」を掲げており、学校をあげて積極的に取り組んでいる。 ☐実績として、調理師科の石狩の食材を使ったメニュープロデュース、沼田町食材を使ったメニュープロデュース、羽幌町の甘エビ普及活動、パティシエ科においては、北海道産小麦を使用したメニュープロデュース実績があり今後も継続していく。 ☐地域へは、学内販売実習で料理・スイーツ・ドリンク販売等で学内を開放。また同時に地域清掃も実施した。 ☐業界へは、コンテストや子供料理教室などの会場として提供した。 ☐卒業生へは日々、技術練習のために実習室及び就職情報提供のため、問い合わせがあった際には求人票を公開している。 ☐中学・高校生の総合学習での授業を実施した。 ☐北海道私立専修学校各種学校連合会が主催する「進路探求オリエンタリング」の講座として登録した。		3.0
	36－2 国際交流に取り組んでいるか	3	☐学園のミッションに「国際教育」を掲げ、学校をあげて取り組んでいる。 ☐実績として、パティシエ科で仏のチョコレートメーカー「ヴァローナ社」のショコラティエによる卒業生向け講習会を実施。 ☐学園が設置する海外事務所が5カ国にあり、留学生の受入れ窓口になっている。また、韓国・啓明文化大学などの提携校を持ち、留学生の受入れを行なっている。 ☐留学生受入れの方針については「外国人留学生入学規則」に明記しており、教育目標等の設定に関しても留学生に対する配慮を行なっている。 ☐姉妹校合同、海外研修の実施。 ☐イタリアのイチフとの連携授業を実施。 ☐イタリア・フランスへの海外研修を企画・実施した。	☐2025年度 ヨーロッパ圏での海外研修再開し、フランス・イタリアを実施した。	3.0
	37－1 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	☐由学生等の総合学習、職業体験の受け入れ、地域へのベルズキッチン(学内店舗実習)の実施。食育を目的とした食育団体への学校開放や食イベントにおけるボランティア活動等を実施。 ☐活動の窓口は、ベルズキッチンは教務部、それ以外の活動については、入学事務局が担当している。 ☐活動実績は常に把握しており、企画書形式で活動概要も管理している。 ☐活動実績の評価は、参加人数で行っている。 ☐活動結果は学内では朝礼終礼で報告される他、SNSなどで外部にも発信することで共有されている。	☐若手人材の経験値を上げる施策を実施する。	3.0